

理研イブニングセミナー

(試行版)

参加無料

理研の研究成果と研究活動を産業界に伝え、連携に結びつけることを目的として、企業の方を対象としたイブニングセミナーを開催します。

時間

17:30 ~ 18:30

(発表 30 分、質疑応答 30 分)

※講演後に名刺交換などの交流の時間を設けます。

会場

理研 東京連絡事務所

〒100-0011

千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 23 階 2311 号室

Tel: 03-3580-1981

定員

各回 40 名 先着順 (1 企業 2 名様まで)

※ご希望の回数にお申込頂けます。

参加対象は企業の方限定とさせていただきます。

お申込は事前登録制とさせていただきます。



2016年2月24日(水)

第1回 磁気渦を押しだけで生成・消去できる新手法を発見

—超省電力型の磁気メモリデバイス実現へ前進—

発表者：岩佐 義宏 (創発物性科学研究センター 創発デバイス研究チーム チームリーダー)

次世代型磁気メモリデバイスへの応用が期待されている微小な磁気渦 (スキルミオン) を力学的に生成・消滅する手法を初めて発見しました。



2016年3月9日(水)

第2回 自発的なうつ状態を繰り返す初めてのモデルマウス

—うつ病の新たな候補脳部位を同定—

発表者：加藤 忠史 (脳科学総合研究センター 精神疾患動態研究チーム チームリーダー)

うつ病・躁うつ病を伴う遺伝病の原因遺伝子の変異マウスが、自発的なうつ状態を示すことを発見しました。さらに、このうつ状態の原因が脳内の視床室傍核という部位のミトコンドリア機能障害にあることを突き止めました。



2016年3月23日(水)

第3回 細胞内部の高精細三次元ライブ映像取得とデータの自動解析法の開発

—高度顕微鏡技術と数値計算の融合により細胞内現象を精密に解く新手法—

発表者：清末 優子 (ライフサイエンス技術基盤研究センター 細胞動態解析ユニット ユニットリーダー)

最新の高速高解像度蛍光顕微鏡技術である「格子光シート顕微鏡」で得られる膨大な三次元像データを自動解析する計算処理技術を開発し、従来の解析法ではとらえることができなかった細胞分裂時過程の詳細な分析に成功しました。画像化および解析技術の産業利用、あるいは高度な細胞機能解析技術の創薬・医療研究における利用が期待されます。



2016年4月13日(水)

第4回 マウスを丸ごと透明化し1細胞解像度で観察する新技術

—血液色素成分を多く含む臓器なども脱色して全身を透明化—

発表者：上田 泰己 (生命システム研究センター 細胞デザインコア コア長)

全脳イメージング・解析技術「CUBIC (キュービック)」の透明化試薬を用い、マウス個体全身における遺伝子の働きや細胞ネットワーク構造を三次元データとして取得し、病理解析や解剖学に应用するための基盤技術を開発しました。この技術によってマウスの全身および臓器を丸ごと透明化し、細胞一つ一つを識別し、1細胞解像度で観察することができます。



2016年4月27日(水)

第5回 次世代時間標準「光格子時計」の高精度化に成功

—2台の時計が宇宙年齢138億年で1秒も狂わない再現性を実証—

発表者：香取 秀俊 (香取量子計測研究室 主任研究員)

低温環境で原子の高精度分光を行う光格子時計を開発し、2台の時計が 2×10^{-18} の精度で一致することを実証しました。この精度は、2台の時計で1秒のずれが生じるのに160億年かかることに相当します。

【お問合せ先】

理化学研究所 産業連携本部 連携推進部 技術移転企画課

TEL: 048-462-5475 E-mail: evening-seminar@riken.jp

申込締切り

各回 (各開催日) 1週間前

※ 参加ご希望の方は会社名、氏名、電話番号、希望する回 (複数可) を記載の上、
件名を『理研イブニングセミナー参加申込』とし evening-seminar@riken.jp 宛にお申し込み下さい。